

第 23 回遠州広域行政推進会議 発言要旨

日 時：令和 5 年 1 月 31 日（火） 午後 3 時 35 分から午後 5 時 05 分まで

会 場：静岡カントリー 浜岡コース&ホテル 2F

出席者：浜松市長、磐田市長、掛川市長、袋井市長、湖西市長、御前崎市長、菊川市長、
牧之原市長、森町長

【報告事項】

・「地域企業×スタートアップ」の融合による地域産業の活性化

発言者	発言要旨
掛川市長	スタートアップに限った話ではないが、ピッチイベントへの参加などを通して学びがあったほか、産業の活性化等については、これまでの積み重ねにより良い流れが生まれている。鈴木浜松市長が交代された後もこの遠州広域行政推進会議も含め、リードいただいている施策を引き続き実施いただけるよう、要望したい。
浜松市長	スタートアップ施策については浜松市の重要な取組の一つであり、遠州広域行政推進会議においても連携して取り組むことができる良いテーマであることから、交代後も継続できるようにしておきたいと考えている。
菊川市長	8 月 3 日のパブリックピッチイベントにおいて、スタートアップ企業の可能性を感じ、参加した一部企業との事業について、来年度の当初予算に組み込んでいる。来年度ピッチイベントが実施されれば、お茶関係など直面する地域課題を解決する企業と出会う可能性もあるため、期待している。
袋井市長	袋井市では 2 月 10 日に「Startup Weekend Fukuroi」を開催するが、これには袋井市の意欲的な企業が関わっている。また、今年度ふくろい産業イノベーションセンターが核となり、「ふくろい産業イノベーションピッチ」を開催した。袋井市としてはスタートアップに限らず既存企業の新規事業・販路拡大等も期待しているところである。 説明において検討中であるとされた、トライアル発注制度について、発注方法とその規模、随意契約とすることによる課題等や全体の流れについて知りたい。 →浜松市・江馬次長より制度説明。 行政が直接調達・導入するものばかりではないと思うが、必要性について説明し、理解してもらうところに難しさがあるのではないかと。導入するフェーズとなった場合は知恵を貸していただきたい。
牧之原市長	牧之原市内の公認会計士がスタートアップ関連の会社を経営しており、そこに委託する形でチャレンジビジネスコンテストを行った。このイベントはお茶や観光、環境等地域資源を活用し、市内事業者などと連携して地域

	課題を解決することを目的としている。コンテストのファイナリストのうち7社が市内での起業に向けて準備を進めているところである。また、チャレンジビジネスコンテストを委託した企業は、現在市内にインキュベーション施設を建設中である。金融機関の職員が毎日交代で当該施設に入ったスタートアップ企業の支援等を行う予定となっている。各市町の担当者間で取り組みを共有し、広域連携に繋げていければと考えている。また、チャレンジビジネスコンテストは継続して実施する予定である。次回のコンテストでは、「NEXs Tokyo」と連携し、首都圏のスタートアップ企業にも声掛けを行い、参加者を募る。
浜松市長	牧之原市の取組については、ワーキンググループでも共有し、広域化に繋げてもらいたい。

【議題】

(1) 2023年大河ドラマ「どうする家康」について

発言者	発言要旨
掛川市長	大河ドラマで掛川城が舞台となる時期には、掛川城の修復工事による覆いも取れると思われる。その時期に合わせ、イベント等を連携して行っていきたい。また、高天神城が舞台となるタイミングでも連携してPRしていきたい。ドラマの進行と合わせたイベントの実施については、今後も調整しながら行っていきたい。
磐田市長	磐田市民に磐田市と家康との関わりが浸透していない。家康の時代、磐田市には府中（国府）があり、遠府と呼ばれることもあった。これらの史実を含め、主に市民向けのPR事業の展開を予定している。他市町にも関わりがある事業等については積極的に情報共有していきたい。 1月8日の「どうする家康 東海プレミアムリレー in 浜松」に途中まで参加し、感じたが、お土産をイベント等で販売し、経済効果に繋げることが必要ではないか。磐田市だけではお土産の種類等が限られることから、イベントの際に他市町のお土産を出張販売してもらおうなど、お金が落ちる仕組みを作りたい。 磐田市にある素材を使い、戦国武将に引っ掛けながら、新たなお土産の開発・消費や興味を持つ子どもを増やす取組に繋がれたらと考えている。情報共有を行いながら、経済効果を遠州全体に広げるため、浜松市にも協力いただきたい。
菊川市長	エコパスタジアムで行われるジャニーズ事務所のグループのコンサートにより、一時的に若い女性の宿泊数が伸びることがある。コンサート等のタイミングに合わせてイベントを行えば誘客に繋がるのではないか。
湖西市	大河ドラマ「おんな城主 直虎」の際も、湖西市民でも知らないスポットに観光客が訪れた。今回も「どうする家康」に関連するスポットについて

	<p>しっかりとPRしていきたい。</p> <p>大河後のリバウンドがある来年は、浜名湖花博 20 周年に係るイベントや、新居弁天地区の再整備を予定している。大河ドラマ後も継続して訪問してもらうことができるような仕組みを広域でつくっていったらと考えている。</p>
浜松市長	<p>引き続きタイミングを図りながら、広域で地域活性化に繋がる連携事業を行っていききたいと考えている。</p>

(2) 外国人材活躍宣言事業所認定制度について

発言者	発言要旨
袋井市長	<p>袋井市は外国人比率が6%を超えており、外国人の増加率が高くなっている。今年5月以降の人口増加の要因の一つは外国人の増加である。外国人が増加している状況の中で、多文化共生事業については、困っている外国人の支援から外国人の活躍支援へとフェーズが移ってきている。袋井市では今年度から担当部署を「外国人活躍共生社会推進室」という名称に変更している。</p> <p>また、外国人を雇用する事業所の努力も必要だが、日本語教育も重要と考えている。袋井市でも子供から大人まで、日本語を学ぶことができる環境を整えているところだが、限界がある。地方自治体単独の実施では難しいことから、国に取り組んでもらう必要がある。皆さんにも協力いただきたい。浜松市が先頭に立っていただけるとありがたい。</p>
牧之原市	<p>牧之原市も外国人比率が5%を超えている。来年度、来日間もない外国人の子供たちを対象に、日本語と生活のプレスクールを実施する予算を組んでいるが、各市町単独では負担が大きいことから、国の助成制度等が必要である。遠州広域行政推進会議や県市長会を通して国に対し要望していくことが重要である。</p> <p>少子化が進み、団塊の世代が高齢化すれば、医療・介護をはじめ全ての業種で人材不足が進む。このような状況下では外国人材を確保できなければ、日本は持続可能な国とならないのではないかと。浜松市の認定制度のように企業と行政が連携し取り組むことが必要。遠州地域での情報共有、連携をお願いしたい。</p>
浜松市長	<p>外国人集住都市会議を通じ、国に政策提言を行っているが、基礎自治体である我々も知恵をだし、取り組まなければならない。経済同友会に働きかけた結果、「浜松外国人材定着サポート有限責任事業組合」が経済同友会により組織された。外国人留学生の雇用について取り組み、優秀な人材を雇用できた事例がある。企業に市町の境は関係ない。遠州全体に同様の課題を抱えた企業が存在していることから、広域で情報共有し、連携していくことが重要ではないかと。</p>

掛川市長	<p>掛川市、袋井市、磐田市で「インターナショナルフェア」を開催した。外国人の方と話しをしたが、言語等の課題により、医療面等で不安があり、子育てをためらう部分があるとのことだった。</p> <p>今後は今までと異なり、外国人にこの地域が選ばれなければ人材確保ができなくなる。外国人に限った話ではないが、働きやすい、活躍しやすい環境をどう整えていくかが大きな課題である。</p>
浜松市長	<p>少子化は海外でも進んでいる。日本でも外国人の受入れ体制を整えなければ、選ばれない国となる。国にも提言していかなければならない。日本語教育については、国からの財政措置も必要だが、県にも支援を要望する必要がある。県市長会等を通して提言していかなければならない。</p>
菊川市長	<p>菊川市では令和 4 年度から市職員採用の受験資格から国籍条項を廃止した。実際に日本語はもちろん、英語、ポルトガル語が堪能な方から応募があり、菊川市にも優秀な外国人材がいることが分かった。選んでもらえる地域にしなければならぬと改めて感じた。</p>
磐田市長	<p>日本人からではなく、外国人から日本人を支援してもらうような取組を検討しているところである。また、起業した外国人に対して商工会議所等とのコミュニティをどう形成していくのか考えていかなければならない。選ばれる地域となるための下準備を教育から産業まで様々な分野で行う必要があるのではないか。そのための情報共有等を今後もお願いしたい。</p>
浜松市長	<p>浜松市では外国人のスタートアップ支援も行っているが、ブラジル総領事館もスタートアップ支援のメニューを用意している。起業する外国人への支援も今後重要となってくる。</p>